



特250
573

神
と
人

木庄蔵著



始



218

特 0 B

573

神
と
人

木
庄
藏
著

3

5



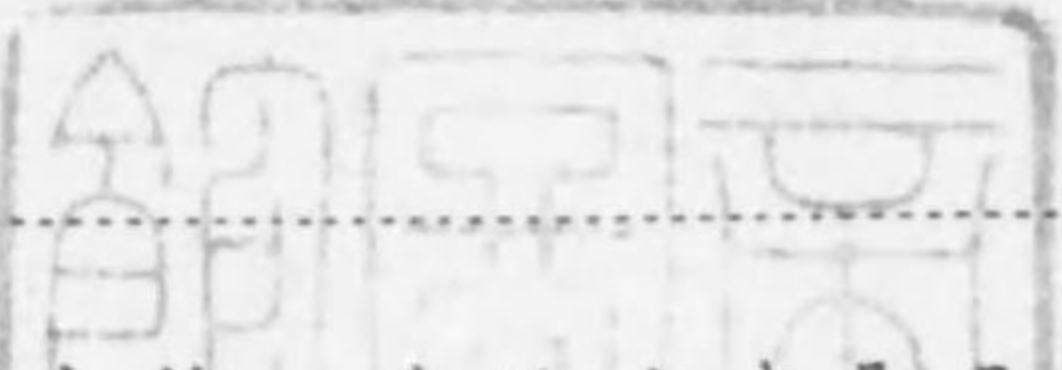
これは花壇に於ける
最近の本書著者

「悦びに溢れて……」

嗚呼ゆかしき天地の御業 親しみ深き敬愛する兄弟よ
悦び溢るゝ私の体験と、心境の一端とを……つたなき筆に現はして見ます
れば、主の御言葉にて、われ平安を汝らに遺す、わが平安を汝らに與ふ。わが與ふ
るは世の與ふる如くならず。世と世の慾とは過ぎ往く人の世にあるは影に異ならず
その思ひ難むことは虚しからざるはなし、その積蓄ふる物は誰が手に納まるを知ら
ず、その時に今は恥とする事によりて何の實を得しか、これらの極は死なり。マル
タよマルタよ汝さま、の事により思ひ煩ひて心を勞す、されど無くてならぬもの
は多からず、唯一つのみマリヤは善きかたを選みたり、此は彼より奪ふべからざる
ものなり。

わが欲する所は汝らが思ひ煩はざらん事なり、此等のことを汝らに語りたるは
汝ら我によりて平安を得んが爲めなり、なんぢら世にありて患難あり、されど雄々
しかれ我すでに世に勝てり、願わくば平和の主みづから何時にても凡ての事に平和
を汝らに與へ給はんことを、願わくばエホバ汝らを恵み汝らを守りたまへ、願わく
ばエホバその血をもて汝らを照し汝らを憐みたまへ、願わくばエホバその面を擧げ
て汝らをかへりみ汝らに平和を賜へ。アーメン

青木庄藏



目次

顧七十體験……………	一
内村先生曰く……………	九
中田先生曰く……………	一二
ユダヤ人と日本人……………	一四
附 聖書の時代的表覽	

顧七十體験

今を去る五十年、大和の山間より出でて大阪市に自家醸造せし酒販賣店を開きしに三年にして失敗し無一物となりたるも此まゝにては郷里に歸ることもならず如何にせんかと思ひし時、考へさせられ最早人を頼るの心を出すにあらず只々神と我のみ、今後の道は一筋に神に信賴すべきなりと確信し自ら働くに斯かすと「此の信仰と努力」とを興へられたるは神であつた。

明治二十二年三月三日大阪犬滿教會にて本間牧師より洗禮を受けそれより一生懸命家業につとめ朝は早く起き出て勇み進みて働き夜は遅くまでも疲れを厭はず毎日一日の勤勞二十時間を限度として働き續けたり。最愛の妻も亦志を一致し夜となく晝となく一生懸命内助にいそしみ、大いなる努力を續けくれし甲斐ありて商賣また次第に繁昌し十數年後には漸く人の仲間に入

るを得たるは全く神の恩寵であつた。

感謝のうちに三男二女を興へられ三十有余年間一日の如く信仰に依る生活を送り、今より二十五年前大阪市に初めて職業紹介所なるものを設立せんと思ひ友人にはかりて是を創立せり。然るに其頃未だ此事業の何たるを知らざる市民は非常に反對運動を起したり。その理由として、ルンペン數百人を集めて宿泊させられては近隣の者迷惑する故斯かる事業の必要なしと唱へし、匿名譽職の人々まで加はりて大反對運動を起せり、然るに八濱氏之を説きて専ら此の事業の必要な所以を聞かせ充分諒解を興へ初めて同事業を我日本に創始したる次第、是は働けば決して就職難或ひは生活に困る等の事なきものと確信する自らの經驗せし事實故である、殊に勞働は神聖であるといふ我國體の根本にもとづき則ち此点より國民の第一思想根元を各自思ひ起せば就職難も不景氣も更にある筈なきものと確信し得。然し今日の如く八

時間勞働または理想のみ高く賃金の多きを望む等の如きは成功には不可能と信するのである。

是れが大阪と天満兩紹介所の最初である、其頃大阪市は非常に市政の紊亂を來し市民の多くが遺憾としたる所であつた。選ばれて大阪市政の席末を汚すに至り、その接する所の商業上や政治上に社會の混濁甚だしく飲酒藝者遊び等の交際見るに忍びず聞くに堪へず、遂に大正五年實業界及び名譽職等に縁を斷ち京都にて靜かに神を讚美したるが自分が此世に生命を興へられしは何等かの使命ありといふ大問題に遭遇した、それは神よりのさゝやきである、則ち聖靈の聲であつた。それより今日まで十五年間不ながら社會人道の爲め聊かなりとも貢獻する所あらばと思ひ禁酒が國家經濟、犯罪、衛生、教育及宗教等に關し重大な問題である事を社會に呼びかけた、大正十一年スタンフォード大學總長であられしジョーホルダン博士の來朝に際し同氏と共に

排アルコール研究を開始する事を協議せし處非常に喜び賛成せられたるを以て茲に財團法人青木匡濟團を設立し、翌十二年世界排酒第十七回大會のデンマークコッペンハーゲン市に開催され八十二ヶ國代表者三百有余名の出席ありて一週間に亘る盛大なる會が開かれたるに當り私も日本を代表して出席する光榮を得た、この會には英米佛伊其他各國より醫學、考古學、優生學、化學、法學等專門大家も集まられ、世界的人物としてはロンドンのサリビ博士、スイスのヘルコート博士、ドイツのゴンゼ博士、米國のポールステット氏の方方ありその人々にも會見の後、獨、佛、伊等を順次視察し至る所に於て研究した。殊に獨佛伊の内伊太利のローマは古代の都にて万国無比の古跡多く茲にて考古學大家ボーニ博士に面會した、氏はフオロロマノ發掘主任として親しく説明あり、氏の談に「ギリシヤ、ローマ埃及及バビロン並に印度支那に至るまで昔惜むべく尊むべき文明の崩壞はいづれも皆飲酒と男女等の共

に豪奢の限りを盡したる跡の實現と知られし故に我がイタリーは最も大切な國産である葡萄酒にアルコール含有の酒を造り各國に向けて販賣し居るが考古學の立場より此のバラチノ發掘を見てはこのまゝには捨ておかれずムツソリーニ氏と相談して新らしく禁酒法案の制定を實現するに至りし」と同主任ボーニ博士が土中の舊宮殿に案内され建築物研究の結果を説明せられ大いに教へられ學ばせられ實に驚くの外なかりし其當時が偲ばれた、尙イタリー禁酒法は三百五十人に對し酒屋一軒なるを以て、是れを五百人對酒屋一軒とする新提案なりといふ。

今より二千七百年前神の人ダニエルの豫言即ち舊約聖書ダニエル二章説明の如く今日に至る世界の歴史の出來事は皆是によらざるは無く神の聖詞は皆然らざるはなし、世界を廻りて實地見聞して神の御言詞の愈々大いなることを深く學ぶ事を得て非常なる喜びと感謝の日を送つてゐる。

爰に於て私が神より示された、亦世界を見聞なしたる實際に就て述べて見やう。

いづれの國も皆時代に依り盛衰あり王權にて其國を治めたりされど豫言の通り各國共に王はあれど無きが如く民衆民本として共和政治民本政治となり従つて道德地に墮ち男女の墮落甚だしく是皆豫言のさし示す所である。然るに我國は神より特別の使命を受け歴史上より我國が神の攝理の中にありし事實として基督教は昨今日本に入つて來たのではなく余程以前より傳來したものである、七八十年前新教が來たことは皆人の知る所であるがそれより先三百年以前既に舊教則ち天主教が教へられて居る。更にそれより遠く昔に湖れば今より千三百年前に唐の時代景教なるものが入つて來たが唐の時代盛んに行はれたネストリアンのキリスト教である一体キリスト教なる名は歐洲に

於て用ひられた名でネストリアンにて傳へられ東へ東へと傳つて支那に入りて景教と呼ばれた。

嘗て僧の空海即ち弘法大師は支那留學中キリスト教を學び、是を我日本に傳へやうとしたが當時佛敎の勢力實に盛んで、彼の京都叡山延曆寺、亦大和の奈良は東大寺に於ても勢力非常なるものがあり、到底此の宗敎を弘め敎ふることの不可能を知り遂に大師は高野山にて成佛したと云ふ、そのキリスト敎的なる例は大和高峰山の麓にて前鬼と稱するところは村中皆眞言宗であると聞くがその佛壇にて佛を拜することがないを傳へ聞いてゐる。

現に景敎の碑は高野山に建てられてゐる。これ日本に傳はりたる歴史の證明にして弘法大師のいろは四十七文字も實はキリスト敎を詠んだもので成程七文字七文字に分けて最後の字を結び付ければ「咎なくして死す」となつて居るのを知る。

これはキリストの贖の死を暗に織り込んで歌つてゐると云ふ事が出来るのである、眞言宗にて行ふ灌頂式と云ふのはキリスト教の洗禮式より轉化したものであるらしくキリスト教と眞言宗との關係に就いては興味深いものがある。其昔應神天皇の御代紀元千六百年頃猶太人が日本に來たのは使徒行傳二章のペンテコステの日に敬虔なるユダヤ人が流れ流れて全世界の極まで傳へよとキリストの御言葉に従ふたものでないかと思ふ。今から六百五十年前弘安四年五月頃元の忽必烈が十万の兵を差向け我國を侵さんとした此元寇こそは我國にとりて一大警鐘である。此時我國は累卵の危きを奇蹟的に救はれた事は我等日本人にとりて忘るゝ事が出来ぬ則ち神風に依て敵を全滅したと云ふ事である、時の執權北條時宗は纔に十八歳、畏れ多くも龜山天皇御自ら伊勢大廟に御祈願あらせられ給ふた、此時に日蓮が起つた。

内村先生曰く

(皇室尊嚴に對する列王記略上一章三二—四〇)昨日は明治節であつたが今週は御大典が行はるゝ週である。吾々國民は此時に際して日本皇室の尊嚴を思はねばならぬ、我皇室は政治的の制度ではない、英國や伊國の皇室と其根本を異にする。成立について考へて見ても英國の皇帝は民が選んで成立したるもので國民多數の意見によりて廢止することが出来る、それ故に英國皇帝を稱して終生的大統領といふのである、米國大統領と異つて四年目毎に選ばれるのでなく世を繼いで代々皇帝である、日本皇室が全く其類を異にすることはよく知らるゝところである。

日本皇室を絶對的君主制度であると西洋人はいふが然らず、ある語弊はあるが無理にいふとすれば絶對的家長制度といふべきである。

日本皇帝陛下は日本人全体の親であり給ふ故に親権を以て國民に臨み給ふのである、家庭に於て其親を子が選舉することが出来ぬやうに日本の皇帝は選舉が出来ない親に家族のものが服従するやうに吾々は天皇陛下、皇后陛下を國父陛下、國母陛下として畏敬心従するのである。ソロモンを以て現はれたるイスラエルの王の制度はキリスト教の信仰を生んだ。基督教は神の國を教へるものであつてキリストは神の國の王である神より遣はされたる神の國の王である、選舉でない、神より直接に任命されたる神の國の王である。日本の皇室の精神はキリスト教の精神と合ふものである。

共和國の制度はキリスト教の精神と合はない（この点については）神様御自身が獨子を遣し給ふて神の國を治め給ふのである。だから選舉を要しない。キリスト教は家長主義、君主主義である。日本國は今や地球の表面に立つて唯一の國体として國家的に此の主義を標榜してゐるのである、メシヤ主義に

キリスト主義に繼續して万世一系皇統連綿として上に臨み給ふのである日本皇室は政治的權力によつて立たうとしたまはない。

米國の家庭では舊い話ではあるが私が目撃した所によると各自がその權利によつて行動する全信頼を以て父母に仕へる、吾々の家庭では決して見る事の出来ないことが彼の國の家庭では行はれる、夕方になると其父親が子供の一日の働きについて夫々報酬を仕拂ふ吾々は之を見て異様に感じるこれでは親に對して冷たい考へが起さる打算的な法律的な權力主義的な家庭になる。日本の家庭はかくの如き法律的な政治的な權力によつてたゞない家族の一人として無報酬的に働く、國民にしても然りである、大家族の一員として國の爲に働かんとする日本皇室は地球上唯一の國家として此主義を世界に標榜する日本の家庭組織が根本より覆へされんとする時に吾々は此聖書の精神によつて新らしく今一度各自の家庭を淨め吾々の信仰の立場より自分の必要より、

世界の立場よりこの御大典を心より祝はなければならぬ。
世界が今日本へ要求しつゝあるものがある、それは日本の皇室の此の根本精神である。

中田先生曰く

我日本人も神が日出る國に與へ給ふた約束を悉く成就し給ふまでは決して廢せざるべしとの大確信を抱くものである、全能の神エホバ詔命して日の出る所より日の入る所まであまねく地をよび給へり詩篇五十篇一節日の出る所より日の没する所まで。

列國の中に我名は大ならん、マラキ一章十一節日の出る所とは日本を指してゐる私は信ずる、イザヤは今より二千七百年前日本が形をなして居なかつた時

から聖靈により此事を豫言したのである、日の出る所とは希約語で「ミヅラホ」で東方日の出る國にて實際神は御榮を表して居給ふ、光は東よりとの聖詞から出て文字通り日の出る所より輝き、事實東よりといふ地理的に考へる時は如何に興味深い、聖書に於て再臨の主を象る曉の明星も義の太陽も共に東より昇り來るものである。されば我國は昔より豊葦原の瑞穂國とよばれて來た關係上このミヅラホとミヅホとは何となく語呂が似てゐる然もミヅラホとは日出る所と譯してゐるが日本語のミヅホとは瑞々しい穂を出す、起き上る、俗にみづみづしいといふのは新鮮なる勢を以てものが出て來る時の形容である、されば新しい齒が生へることを瑞齒ぐいといふのを見ても解る故にミヅラホとミヅホの兩者は語原を同じうするものではあるまいかと思はれる。いづれにしても神は現にこの瑞穂の國を祝福しつゝ居給ふのである。此國に神は驚くべき榮光を表し居給ふ現に神は妙なる御業を成して居給

ふことは感謝に堪へぬ。世界に於てキリスト教が行詰り居る時此の日の出る國に於て聖業を表し給ふ日本人といつても何も特別な人種でもないが此國人を撰んで世界に證しせしめんとして居給ふと確信す、故に汝ら東にてエホバをあげめ海のしまじまにてイスラエルの神、エホバの名をあげむべし。イザヤ二四、一五節

ユダヤ人と日本人

「猶太人種の存在は一の奇蹟であり、又神の語る證である」とはユダヤ人ニユマーク氏の述懐である。

嘗つてニユマーク氏は何の修飾もなく卒直に熱心に述べられた。氏は英國の倫敦に生れた猶太人であつて信仰に入らない前には一般猶太人の如くキ

リストを反逆者であると思ひ、聖書は奇怪なる物語をもて充されたるものと思つた。人格者なる神が在る杯と言ふ事は信じられなう。ユダヤ人以外のものは皆基督信者であると思ひ自分の周圍に在る英國人の信者を見て斯の如き教には決して入るまじと決心してゐた、ユダヤ教の必要すらも感せず勿論食事の時感謝もせなう、米國には三百三十萬のユダヤ人があるが何れも同じ様な考へを以てゐると思はれる。日本に渡來して五年の間中金儲けの外何もものもなく兄と二人で平安に過せしが兄は戦争の爲に歸英し一人神戸に止まり某會社に奉職してゐた、兄去りし後は靜かなる讀書に由りて寂寥を慰めて居りしが或時一冊の書物を手にした、これ宿の主婦から借りた聖書にて此書は私をして神を探し求めしめ神は如何なる御方かと考へ始めた、何所に行くにもこれを携へ遂に全巻を通讀し又繰り返して從來の偏見は全く除かれ神の事人の事に就いて多く學び得た、そして人間は罪人であつてこれより救は

る、途は只主に由るの外なき事を示された。併し未だイエスはキリストなりとの信仰に達する事が出来なんだ。續いて新約聖書を読み始めマラキ書に録されし恐ろしき神の詛もイエスキリストに由りて除かれることを知り直ちに主イエスキリストを受け入れ神との和を得た。英國人が信者となる時は牧師は其肩に手をかけて善き子よと喜び祝ふてくれるがユダヤ人はそれと反對に人殺しよりも更に惡き人間として取扱はれる私も又路傍に於てユダヤ人が證をなしつゝあるを見る時には惡感情を抱き見向きもせなんだ、併し私は信仰に入つた事を手紙を以て倫敦に在る家族に告白した、此時神より眞の平和と喜びとを與へられた私の兄は其後再び日本に來た、或時共に道を行く際此兄に向つて信仰の告白をした、兄は見る間に顔色を變へて怒つた、其翌日私に手紙を送つて最早斷然絶交する故汝の汚れたる金をも送る勿れと言つて來た、私と兄とは眞に相愛して居た故此時程私の心に大なる憂と悲しみを覺

わた事はない、私は直ちに返書を書いて「私を救ひ給ふたのは基督でありて彼こそは吾儕の救主でありて卿等が吾を棄つるとも神の愛は決して吾を忘れぬ、肉身としては此上なき苦痛なれども致し方なし」と書き送つた、故國の母は三日間泣き續け「私の可愛い子供はクリスチャンになつた」と嘆きしとの事である。又他の兄弟も頻りに信仰を棄てよと言ひ越した、併し迫害は幸福な事にて主のみが平和を興へる、總ての人が吾を棄つるとも主は吾を棄て給はぬ、主こそは實に讚美す可き御方である。今や二年餘り兩親友人より一通の書信も來ない、余は唯主に頼り多くの迫害を受けながら或は證詞をなし或は小冊子を以て日本に在る外國人に傳道した、併し今は切に歸國せん事を願ふ、曾て嘲笑の眼を以て路傍に證せし人を見たる其街路にて勇ましく證せんと決心して居る。私は約翰第一書一ノ九「若し己れの罪を認さば神は誠實なる誠義者なれば必ず吾儕の罪を赦し凡ての不義より吾儕を潔む可し」との

聖言に由りて罪を赦されしも自身の心にある罪を思ふ時に他人の爲めに祈る杯とは思ひも由らず又日毎の失敗の生涯を思ふ時に苦痛甚しく主に助けられ善事をなすよりも主を助けて善事をなさんとして居た、併し神は私に「凡ての事は主に由りてのみ爲し得らるるもので」あると教へて下さつた。一切を主に任せ主は吾心の汚れを潔め聖靈に由りて全く吾を充たし自由なるものとなし給ふた。主が凡ての不義より潔め給ふならば吾に罪ある筈なし、吾儕に於ては生けるは唯基督のみである。又此世の財に心を止む可からざる事を教へられて十分ノ一献金を始めた、又神の國と其義しきを求むるものに主は一切の必要を充たし給ふ事を信じ貯金の全部を献金した、而して三百圓の月給中八十圓にて生活して二百二十圓を神に献じる事にしてをる。余は又「義しき者の篤き祈りは病めるものを救ふべし」との聖語に由りて勵まされ神に癒を求め遂に眼病を癒されたのみならず健康をも神に由りて得る様になつた。故

に決して部分的の事を言はない。今やユダヤ人はバレストアインを指して歸國しつゝある、これ即ち聖書の豫言の成就しつゝある事實である。併し猶太人は此事に氣附かずに居る、英國は今ユダヤ人を聖地に送り還しつゝある、此中には信者もマホメット教徒も偶像信者もある。主の再臨は何時あるか其日時は分らぬ。併し其時には信者は携へ擧げられ、後に地上に降臨されます、今日多くのユダヤ人が歸國しつゝあるが彼等は大患難に遭はん爲に歸國しつゝある如きものである、救はれ居る吾儕は空中に携へ擧げられて此患難を免れる事が出来る。然る後にユダヤ人は國民として救はるゝ事が出来る、諸君は彼等の爲に傳道する事は出来ぬが彼等の爲に祈る事は出来る。これは神の喜び給ふ所である、諸君が救はれたのは猶太人に由りてゝある。キリストも十二使徒も猶太人であつた、それ故にユダヤ人が救はるゝ事は大切な事である、云々。

日本人と猶太人と類似點の多き事、

聖書は西洋人よりも日本魂に訴ふる所が深い、

猶太人と日本人とは骨相類似以上に深き關係がある、

キリスト教は決して英米人より教へらるべきものではない。

神は大御計畫を御立てになり世界万物と人類を創り給ふて地球の全面に置き給ふ、新約に依る聖詞としてヨハネ傳一章一節にあり新約聖書黙示録二二二章

十八十九節舊約聖書ダニエル二章卅一節より四十五節説明、左に

一、純金の頭　バビロンネブカネザル大王なり、

二、銀の胸　メデヤベルシヤ聯合王國なり、

三、銅の腹と腿　ギリシヤアレキサンダー大王なり、

四、鐵の腰と脚　ローマ帝國なり、

この流れとして英米獨佛の文明之なり。

五、脚の一部は鐵、一部は泥土現代の時、鐵とは即ち君主政治、泥土とは民

本民衆政治のこと、

人心浮薄個人主義、國としても然り自己而已他を顧みる事なく己の利是而己に走り公德道徳は地に落ち、遂に世界が争を起し人類が治らず人手に依らず切出されし石則ちキリスト再臨成し給ふて神の王國建設され初めて平和が来る。

人間の初めはアダムが妻エバに勧められて罪を犯したるにより水に依り一掃し皆殺しにされたる時ノア一家は神を信じ救はれて一家八人残され又人類を起されたり然るに矢張りアダムの血が罪を犯しキリストの表はれとなりて再び我々の罪を除かんと救主なるキリストを此世に來らせ給ひ遂に十字架の血を流し是に依り神の聖靈を與へ罪の子なる我々を救ひ給ふ事となりたれば天の父なる神を拜し罪を悔て神に従ふ事に依りて神の子として永遠限りなく生

命を給ふ、それ故我々は潔きものとされ神の子として此世に生くれば最早神の子たり再び罪人とならざる様神共に居まして絶へず祈りて感謝と喜びの生涯を送るべきである。

此世にあらん限り神免し給はらば、勇往邁進縦へ水火の中の苦難にても聖名の爲めいそしみつ、主の再臨を仰ぐまで。アーメン

昭和八年初夏

芦屋の里にて

七十翁 靈峰 著

昭和八年六月廿二日印刷
昭和八年六月廿二日發行

〔非賣品〕

著者

青木庄藏

編輯兼發行印刷人

山口一郎

印刷所

大上成堂

發行所

財團法人青木匡濟團

電話堀川一七〇四番

大阪市北區北同心町二丁目二十九番地

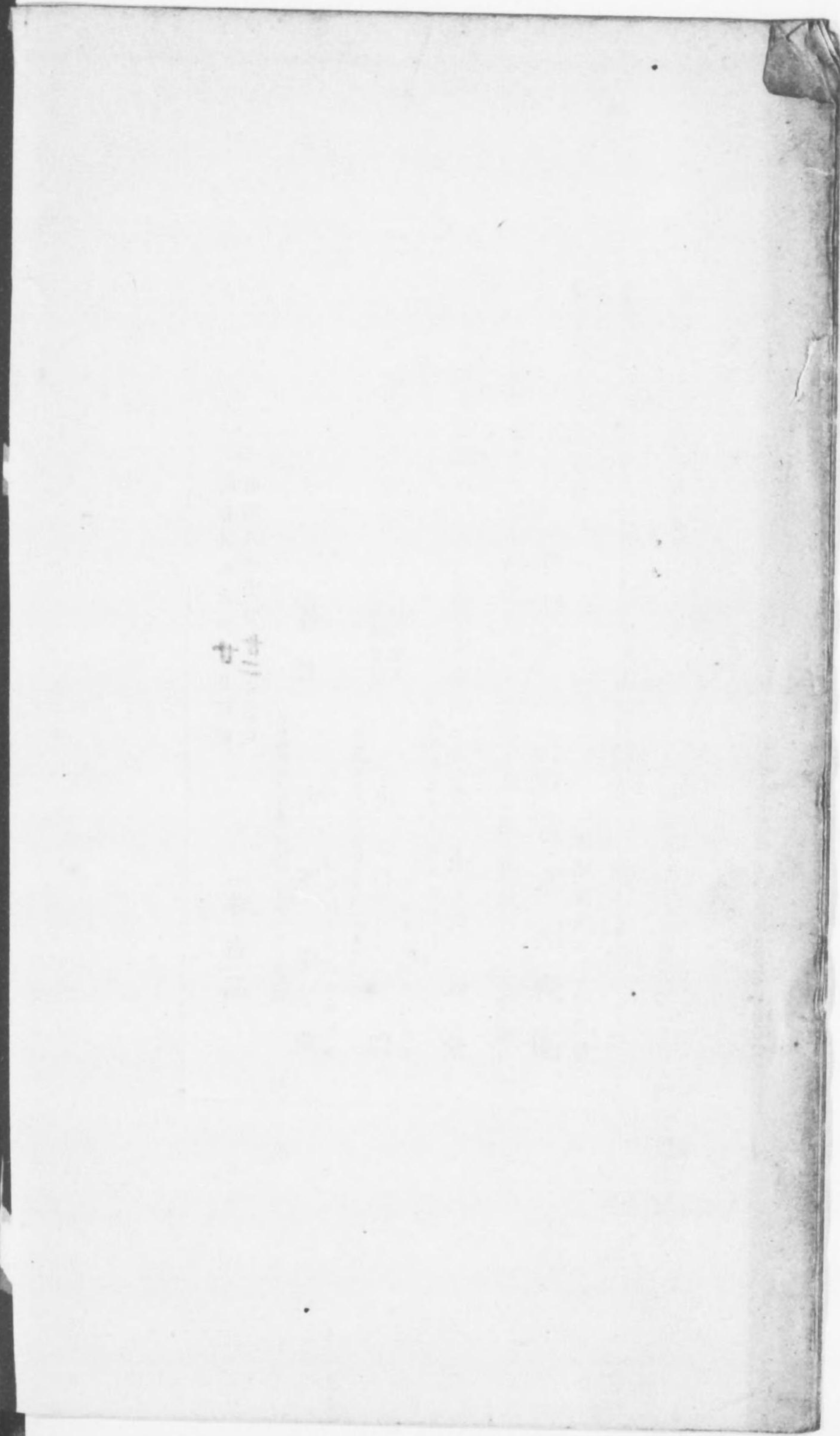
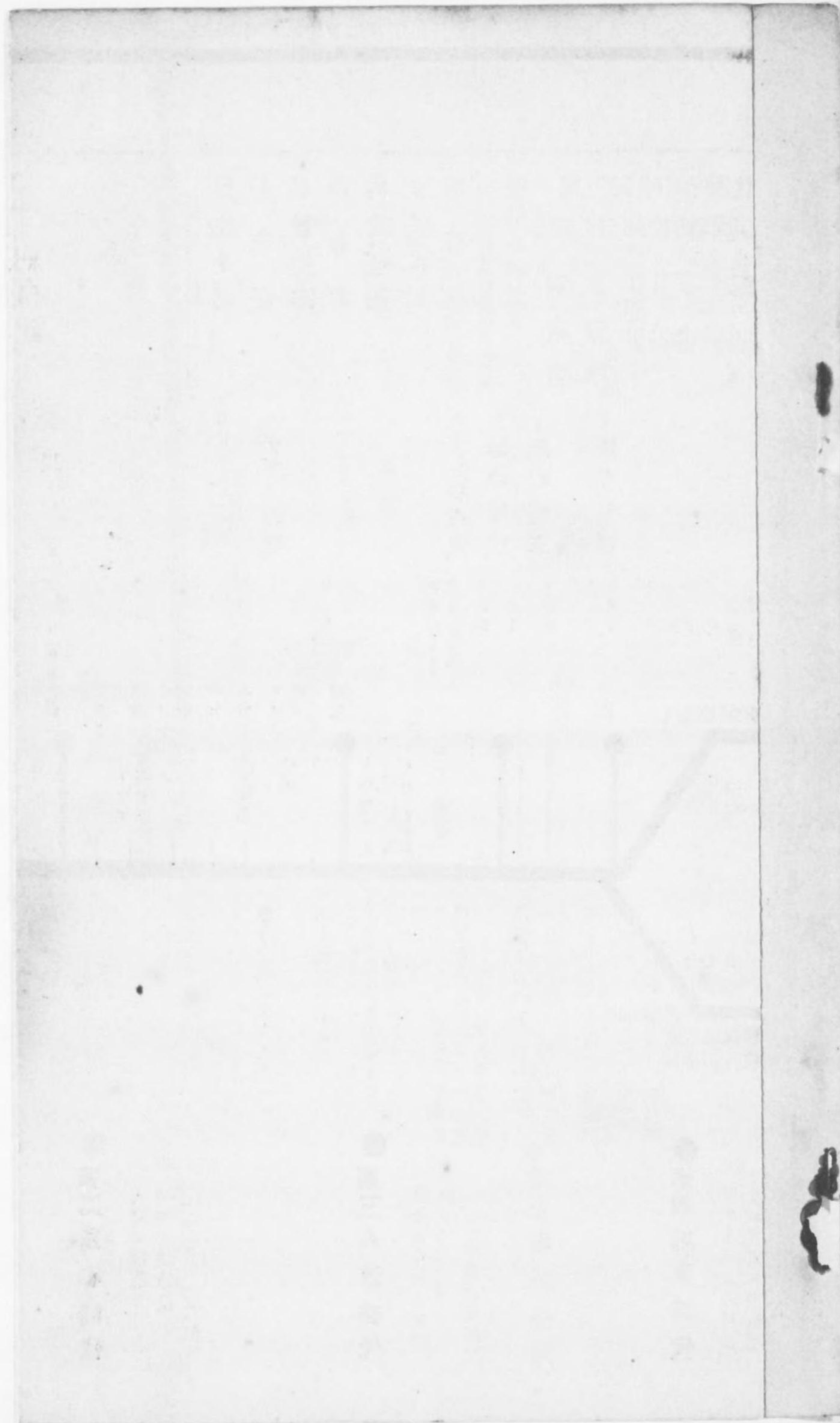
大阪市北區船場尾町十一番地ノ二

兵庫縣武庫郡神戶町字横屋百八十四番地

電話芦屋三九四五番

兵庫縣武庫郡神戶町字横屋百八十四番地

電話御影四九三四番



聖書の時代的表覽

太初 (約一〇一)
永遠

● 時代的區分

● 第一 無邪氣時代

アダムの創造より
エデンの園外に追
る迄
(不明)

● 第二 良心時代

人間の墮落より
ノアの洪水迄
(千六百五十六年)

● 第三 人政時代

洪水よりバベルの
塔まで
(四百廿七年)

● 第四 約束時代

アブラハムの召よ
りエザブトの帳迄
(四百三十年)

● 第五 律法時代

シナイ山より
カルバリー迄
(千五百年)

天地創造

萬物の創造

〔アダムの創造〕人間の創造

〔失樂園〕人間の墮落

〔神の審判〕ノアの洪水

セムアブラハムユダヤ人
ハム奴隸アラビヤ人
ヤベテ白哲人

〔バベルの塔〕バベルの離散

暗黒時代 三百十二年

〔撰民の初〕アブラハムの召

イサク

イサク (ヤコブ)

イサク (エザブト)

イスラ

エル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

エゼル

(創一〇一)

(創一〇一以下)

(創一〇二七)

(創三〇六)

(創七〇十二)

(創一一〇一—九)

(創一二〇一)

(出十二〇五、五十一)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

(出十九〇二十)

昇天 (徒一〇九)

十字架



十字架

十字架の誕生 (路三八—廿)



十字架の誕生

(徒二七—三五)

(徒二八—二七)

第六 聖靈時代

出埃及記 利未記 申命記 約書亞記 士師記 撒母耳記 列王紀 阿巴底亞書 約拿達書 亞賽亞書 以賽亞書 米迦書 拿番雅書 西番雅書 哈巴谷書 (略)

〔エザブトに往く〕 〔エチプトの帳〕 〔エザブトを出づ〕 ヨシユヤの時代 〔カナンの占領〕 〔士師の時代〕 〔王國の建立〕 〔王國の分別〕

エザブトを出るヨシユヤの豫言 〔母前十六〇十二、十三〕 (王上一〇廿九、四十) (王上一二〇十六)

エザブトを出てヨシユヤの死 〔母前十六〇十二、十三〕 (王上一〇廿九、四十) (王上一二〇十六)

エザブトを出てヨシユヤの死 〔母前十六〇十二、十三〕 (王上一〇廿九、四十) (王上一二〇十六)

エザブトを出てヨシユヤの死 〔母前十六〇十二、十三〕 (王上一〇廿九、四十) (王上一二〇十六)

以士帖書 耶利米亞記 以西結書 哀歌 但以理書 以士喇書 哈基書 尼希米亞記 撒加利亞書 馬拉基書

〔ユダの捕虜〕 〔捕虜の時代〕 〔捕虜の恢復〕

セテキヤ 七十年間 〔捕虜の恢復〕

セテキヤ 七十年間 〔捕虜の恢復〕

セテキヤ 七十年間 〔捕虜の恢復〕

セテキヤ 七十年間 〔捕虜の恢復〕

セテキヤ 七十年間 〔捕虜の恢復〕

セテキヤ 七十年間 〔捕虜の恢復〕

人間の墮落より
ノアの洪水迄
(千六百五十六年)

出埃及記
利未記
民數記
申命記
約書亞記
士師記
路得記

〔エチプトに往く〕
〔エチプトの梟〕
〔エチプトを出づ〕
〔カナンの占領〕
〔士師の時代〕
〔王國の建立〕
〔王國の分別〕

〔出十二〇五、五十一〕
〔出十九〇二十〕
ヨセフの死よりエチプトを出カナン占領まで百八十四年
〔書十三〇一〕
〔母前六〇、十二、十三〕
〔王上一〇、廿九、四十〕
〔王上一二、〇、十六〕

● 第三 人政時代
洪水よりバベルの塔まで
(四百廿七年)

撒母耳記
詩篇
列傳
王傳
約書
阿巴底亞書
約拿達書
亞賽士書
以賽亞書
米迦書
拿翁書
西番雅書
哈巴谷書

〔ユダの捕虜〕
〔セデキヤ七十年間バビロンに居す〕
〔捕虜の恢復〕
〔エズラ時代〕
〔マラキヤ時代〕
〔アポクリフハ…(中間歴史)〕

〔ユダの滅亡〕
〔ホセア王に至りてアツスリヤ王に捕虜となる。〕
〔セデキヤ王の時代にバビロンに捕虜となる。〕
〔バビロンに捕はる恢復迄七十年〕
〔バビロンより解放さる。〕
〔恢復よりマラキ迄百三十六年〕
〔舊約最後の豫言者(前アダム迄四千四年)〕
〔マラキよりキリスト降臨迄四百年〕
〔バアテスマのヨハネ(第一〇五十七以下)〕

● 第四 約束時代
アブラハムの召よ
リエチプトの梟迄
(四百三十年)

以土帖書
耶利米亞記
以西結書
哀歌
但以理書

〔ユダの捕虜〕
〔セデキヤ七十年間バビロンに居す〕
〔捕虜の恢復〕
〔エズラ時代〕
〔マラキヤ時代〕
〔アポクリフハ…(中間歴史)〕

〔ユダの滅亡〕
〔ホセア王に至りてアツスリヤ王に捕虜となる。〕
〔セデキヤ王の時代にバビロンに捕虜となる。〕
〔バビロンに捕はる恢復迄七十年〕
〔バビロンより解放さる。〕
〔恢復よりマラキ迄百三十六年〕
〔舊約最後の豫言者(前アダム迄四千四年)〕
〔マラキよりキリスト降臨迄四百年〕
〔バアテスマのヨハネ(第一〇五十七以下)〕

● 第五 律法時代
シナイ山より
カルバリー迄
(千五百年)

昇天
↑ (徒一〇九)



キリストの誕生 (路三、八、廿)
キリストの昇天

● 第六 恩惠時代
十字架より
キリストの
空中再臨迄
(不明)

↓ 聖靈降臨 (使二)

代時會教 (代時恩惠)
哥前十二、廿七
哥前十五、五、六
哥後六

義人、聖徒、化
↑ (哥前十五、廿五、五二)

主空中迄來降
主(撒前四〇、十六)
羔の婚姻
黙二〇、廿三
太廿二、七、九
撒前四〇、十三、十八
西三、二

推挙(撒前四〇、十七)
白三日 大患難時代
顯現(撒后七、十)

千年王國
黙二〇、四、六
全廿二、十五

患難時代に於ける殉教者の獎(黙廿〇、四)
サタンの幽閉
(黙二〇、一、三)
羅八〇、十一、廿五
患魔の放釋(黙二〇、七)
(其結果黙二〇、八、十)

● 第七 王國時代
地上再臨
より
壹千年間

天よりの猛火地球の破滅
(彼后三〇、十三)

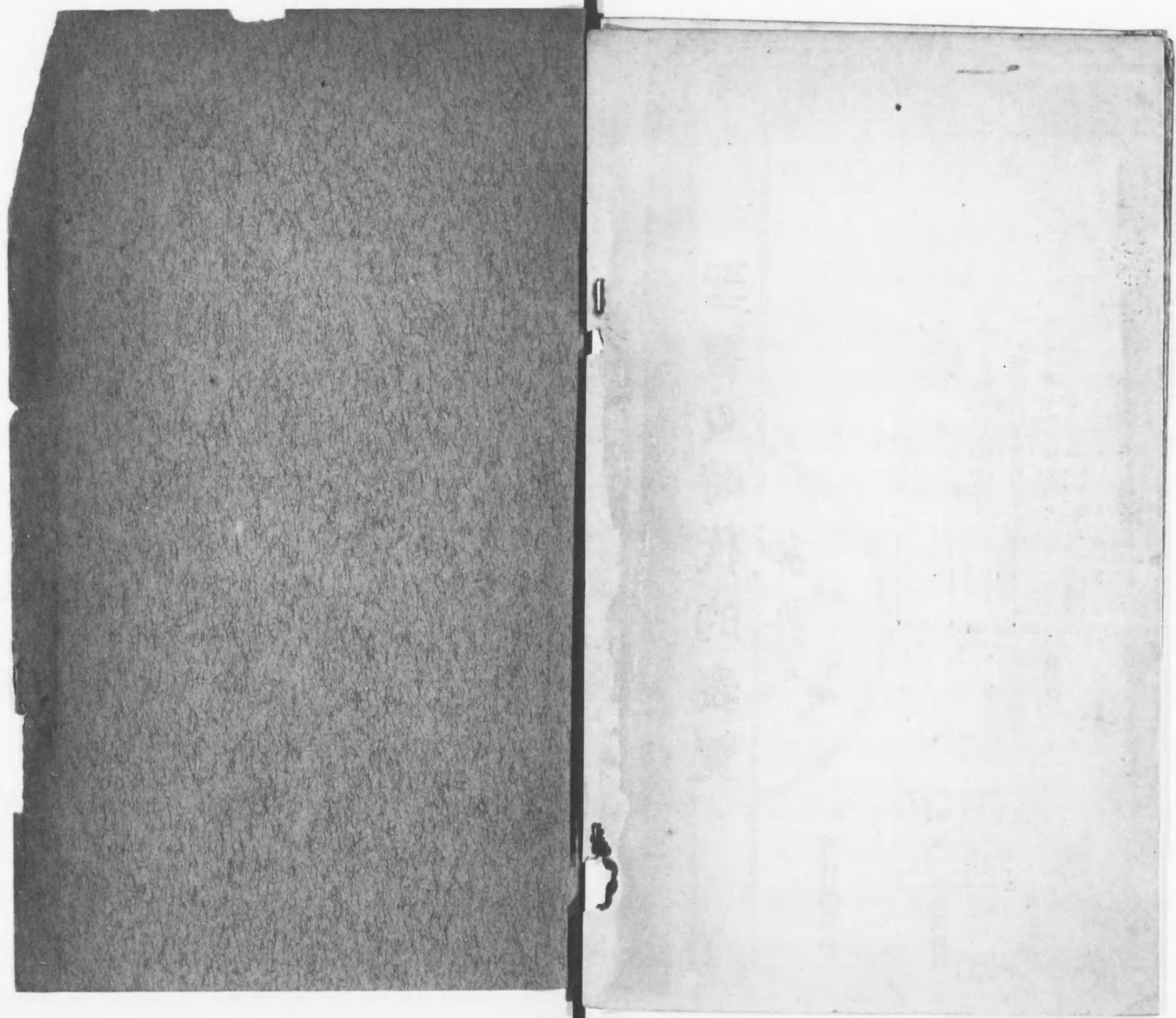
(黙二〇、七、九)

最終の復生
全死者の甦(黙二〇、十二、十五)

新天
大審判
太十三、四七、五〇
哥前十五、二六
黙二〇、十一、十五
賽六五、一七、廿一、五

永遠
弗二〇、七
賽五七、一五

新地
(賽六五、一七、廿一、五)



終

